NO、42（通算２１６）

絵・文・題字

渋谷　一夫

変わりゆく道

昔の道は曲がりくねっていた。今の道路は真っすぐだ。道も道路も、人や車が行き来する所で、同じ意味だ。だが、私の古い感覚からすると、昔の道を「道」、今の道を「道路」と呼びたい。

地形に沿った昔の道

今の道路は真っすぐになった。南畑を縦断する県道川越新座線然り、市役所前の道路然り、ましてや国道４６３号・２５４号バイパス然りだ。車にとっては大変有難い。

これに反し、昔の道は川があればそこを避け、山や台地があれば巻いて敷かれた。右に曲がり左に曲がり、時には大きくヘアピンカーブした。だから道程も長くなった。南畑から鶴瀬駅まで、昔は４㎞といわれた。今は約３㎞だ。

南畑の昔の道

地図を見ていただきたい。南畑を縦断する県道１１３号川越新座線は、昔からの道で南畑の主要道だ。ほとんど新河岸川の流れに沿っている。一部上南畑で木染橋方面に分岐しているが、やはり新河岸川に沿っている。

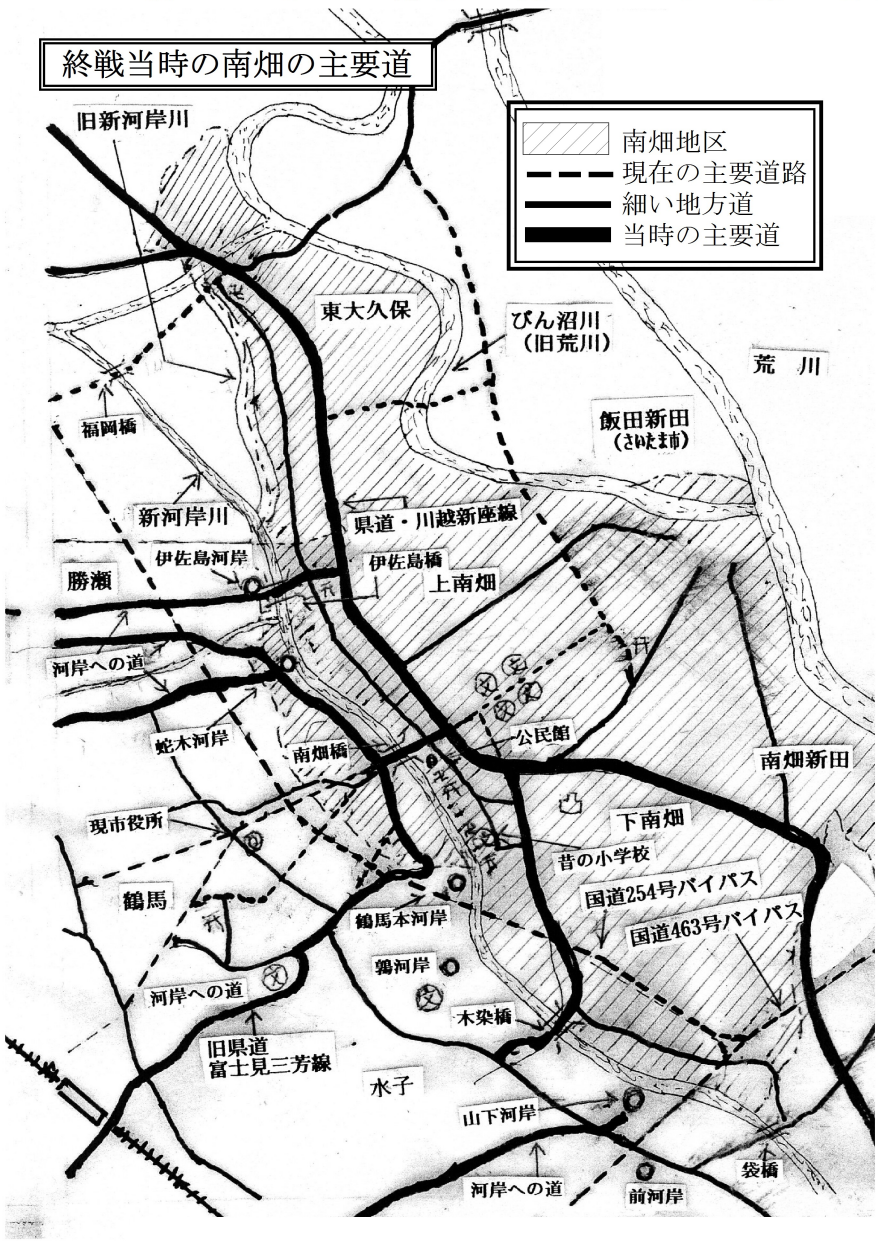
昔は、川の横断は大変だったのだ。その昔は渡し舟、その後に橋ができた。南畑橋ができ、その後木染橋・伊佐島橋ができた。それに通じる道もできた。野方（のがた）方面からは舟運（しゅうう）当時の河岸への道があった。南畑からは、その道へ通ずる形で橋ができ道ができた。鶴瀬方面へは南畑橋から、勝瀬方面へは伊佐島橋から、水谷方面へは木染橋からが主な道で、すべてそこへ通じていた。

昔の道と今の道路

終戦当時の道は、すべて凸凹の砂利道だった。両側には雑草が生え、風が吹くと砂塵が舞い上がった。主要道でさえ、これだ。ましてや畦道野道ともなれば、さらにひどかった。雨が降るとぬかるむ。道の真ん中にもオオバコやクローバーが生えていた。これが私の脳裏にある「道」だ。

野草の小道・散歩道・山道などが連想され、草の匂い土の匂いが漂ってくる。哲学の道、思索する道に通じ、ゆとりの生じる場所でもあった。

これに反し、今の道路はすべて舗装道路だ。コンクリートやアスファルトで固められている。田畑や林の中の狭い道まで舗装道路だ。川があれば高架な橋を架け、山があれば削り取って坂道に、時にはトンネルに。すべて人工的で、うるおいがない。単に移動するためだけの道だ。

良しあしは別として、これが現実だ。

南畑の自然環境も、道を含めてだいぶ変わった。そこで、昔の様子を想起してみたのである。